

理想の住まいのカタチとは…。

——人生のパートナーが決まり、子供を授かる。そんな人生の転機には、誰しも家造りのことが頭をよぎるもの。このまま賃貸でいいか、家を建てるか。何が自分にとって一番いい形で、「正解」はあるのでしょうか。

「住まいのカタチは人それぞれで、賃貸や分譲マンション、持ち家という選択肢に『正解』はありません。飽きれば次

の家に移れる賃貸のほうが、気楽でリスクも無いと考える人もいるでしょう。また、たとえば40代後半ぐらいでこれから子供の学費が一番かかるという方が住宅ローンを組むことは、現役で働ける残りの年

数を考えても難しいものがありますよね。でも

30代半ばのオトン予備

軍世代であれば、生涯支

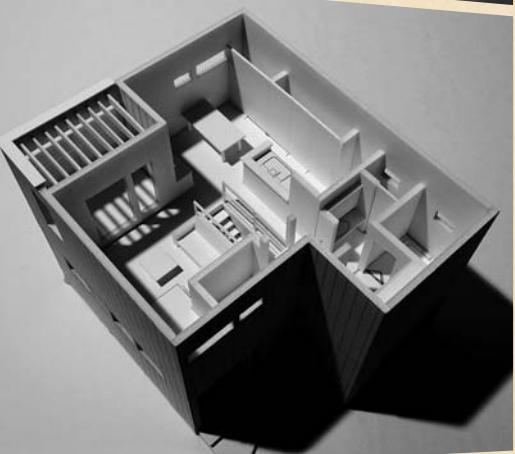
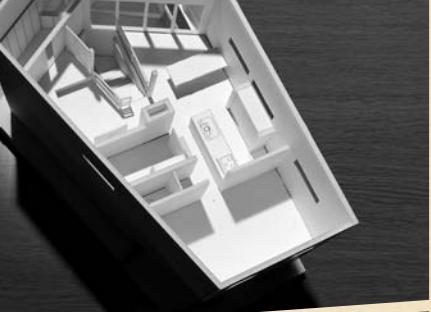
払い続ける賃料の方が、新築する金額を上回る時が必ずやります。

だから若い人なら家を建てたほうが得です、ということではありません。家とは損得勘定ではなく、価値観の問題だと思うんです。

今現在ではなく今後の自分の生活を守る基盤になるものをどう考えていくか、ということ。自分に何かがあった時、家族に財産として残せるものがあるかどうか。自分のことだけ、今のことだけ考えていいのか、ということに立ち返った時に、賃貸ではなく

「きっとほとんどの人は、まずは住宅雑誌を買う、あるいは住宅展示場に行つて『なんとなくいいな』と思える住宅メーカーを探す。そのどちらかだと思います。

でも、本当にまずすべきことは、5年後10年後に自分達はどうしているかな、どうしていったいかな、ということを夫婦でよく話すこと。どんな場所に住みたいか、子供をどう育てたいか…といったさまざまなことを一人で改めて考えてほしいんです。



隔月連載

造る喜び、住もう喜び。

<http://www.fphome.jp/lia/>

そろそろ、家のこと。

家を建てたいと思つたらまず、するべきことは。

そこに暮らす家族の生活スタイルや大切にしていきたいこと、10年後、20年後の姿を後悔しない家造りをするためには、まず何をして、どこに行けばいいのでしょうか。

想像しながら、理想の家を自分で形にしていく「住まい造り」。それは一見大変そうな作業でありますから、実はどうとも面白そうだ。

次々号、連載第2回では、家造りを託す住宅メーカーの選定に大切な考え方、オーダーメイドの家造りについて、より掘り下げていきます。



そして、家造りを託す相手を探す時は、誰かに頼んで自分達の家を造つてもらうではなく、自分の家は自分で造るという意識をもつこと。家造りのプロセスと一緒に楽しませてくれる相手、家という『箱』を造るのでなく、その

家を造るという選択肢が見えて来るのではないでしようか

——一生に一度あるかないか。後悔しない家造りをするためには、まず何をして、どこに行けばいいのでしょうか。

想像しながら、理想の家を自分で形にしていく「住まい造り」。それは一見大変そうな作業でありますから、実はどうとも面白そうだ。



じぶ やすひさ
治部 泰久さん

1973年生まれ、下川町出身。『lia Style』(株式会社FPホーム)チーフプロデューサー。「会話から始まる家づくり」をテーマに、少数精鋭のスタッフが既成概念にとらわれない柔軟な発想で提案する住まいは、新しい家づくりのスタイルとして注目されている。

人の一生の『住まい』を造る

という意識で取り組んでくれる相手を探してほしいなと思います」